

第 6 5 回 御 池 岳

昭和59年5月3日(木)～4日(金)

京都 — 草津 — 柘植 — 亀山 — 富田 — 西藤原
1252 - 1317-1335-1422 1454-1517 1534-1611 1630-1717

— 15分 — 坂本(泊)

坂本 — 90分 — 白船峠 — 15分 — 真ノ谷 — 40分 — コグルミ谷

分岐点 — 20分 — 丸山への東分岐点 — 10分 — 丸山 — 20分 —

丸山への東分岐点 — 20分 — コグルミ谷分岐点 — 35分 — 池ノ平

— 20分 — 鈴北岳 — 10分 — 平ノ口 — 60分 — 御池谷出合

— 20分 — 百々女鬼橋 — 20分 — 大君ガ畑 — 60分 — 南彦根

近江鉄道(彦根駅前)

☎ 07492- 2- 3301

嵐荘

☎ 0594- 46- 3211

三岐鉄道の電車が揺られて終点の西藤原へ。駅前を左にとると、北西に通じる幅広い道に出る。左手に藤原岳登山口の道標、新しい鉄筋の小学校、聖宝寺への入口を見送って少しいくと、幹回り一辺、高さ十数mの大きなケヤキが丸く枝を茂らせている。このケヤキのところに食料品の店と養鶏場の案内板とがあり、左に幅狭い車道が分かれている。この石垣に沿った道に入ると、道は三分する。「林道坂本線」の標識の立つ道を左に分け、右にカーブしながら進む。すぐ奥が一基ばつんとあり、ここから西に向かって一帯幅の道がずつとのびている。これをとって緩く登っていくとすぐ人家が尽き、ヤマブキの多い山麓になる。

左手に浄水場があり、山道になって流れに沿うと橋を渡り、左岸に移る。ほどなく小滝と呼ばれている一〇m近い四条のナメ滝があり、急流がほんのしばらくほどはしる。右に、岩の下からの湧水が勢よくあふれている。この先は流れも伏流になって、さらに進むと岩小屋があり、付近には石灰岩の露岩が散在する。左へ山道が分かれるが、右をとるとあとは一本道が白船峠(白瀬峠)までよく踏まれて続いている。

次第に伏流の沢から離れ、シロモジの純林を経て支尾根上に出る。このあたりから北の方が開けて、木の間がぐれに伊吹、烏帽子、笨ガ岳などの山々が望まれる。小さな乗越を過ぎると、5月初旬頃まで長く連なっていた残雪のある沢に出る。春には残雪のそばにミスミソウ、ミヤマカタバミ、カタクリ、ウバユリ等が萌え出していて、峠近い感じが強い。

登り着いた白船峠は県境鞍線上の鞍部で、展望はきかないがいかにも峠らしい地形に加えて、春のコブシ、新緑、紅葉が印象に残る場所である。

真ノ谷への下りは、峠の直下で右への分かれ道に入って落葉松の林を左にししながら、最初ほとんど水平に、次第にごく緩く下ってゆく。沢筋におり立つと、浅い清水が四季を通じて流れ、一〇m程ぐらいいは可能の格好のテント場。春にはアズマイチゲが地表をおっている。

通行にうつるとすぐ狭い谷になり、よく踏まれた踏跡道(出水後には消失することがある)が沢沿いについている。流れから少し離れたたり、ちよつと巻いたりしているが谷底を詰めていく。水流が消え、バイケイソウの群落を谷を埋めているところなどを通り、最後まで詰めあげる。

コグルミ谷からの道の合流点、丸山・奥ノ平への分岐点を経て池ノ平を進み、踏分け道と道標に導かれて鈴北岳に立つ。鈴北の頂上には東西にのびる山道と、それに直交する県境鞍線上のかすかな踏跡道があり、頂上から鞍出峠を旨指して北に向かってたどるようになる。

峠からは西に下ると、植林後まだ余りたっていない若い林の広い斜面の中よく踏まれた道を経て、車道に出る。そして、あとは御池谷橋、百々女鬼橋を過ぎて大君ガ畑の集落に着く。

